

新型コロナウイルスに対するワクチンについて

いよいよ我が国でもワクチン接種が始まりました。新型コロナウイルス感染症は、少数ですが重症化して亡くなる方がいらつしやる疾患であり、ワクチン接種は、社会全体にとっても非常に重要なことです。

リウマチ膠原病科に通院中のみなさまには、自分はこうしたらよいのだろうか、とお悩みの方も多いことと思います。誰にとっても未曾有の出来事ではありますが、現時点でお伝えできることを記します。

ワクチンについて考えなければならぬことは、三つ挙げられます。

①副作用はどうか。

ワクチンの副作用一般については、首相官邸・厚生労働省のオレンジ色のパンフレットをご覧ください。

まず、現在本邦での接種が見込まれている三種類のワクチンは、いずれも新型コロナウイルスのかけらの設計図（RNA）だけを注射するものです。これでは体内で新型コロナウイルス粒子全体を形作るには不十分です。したがって、ワクチン自体が新型コロナウイルス感染症をひきおこすことはありません。

受けたあと急に起きる副作用で注意すべきとされる「アナフィラキシー」の確率は約九万分の一です（これは、我が国の国民が一年間に交通事故で亡くなる確率の約三分の一です）。また、アナフィラキシーを生じた方のうちこの集計で追跡し得た方は全員帰宅されています。

リウマチ膠原病は、過剰な免疫の働きがひきおこす病気と言えます。ワクチンは、免疫の働きを高めたうえでウイルスに対する抵抗力（＝免疫）をつけます。このため、理屈ではリウマチ膠原病が悪くなるように思われます。しかしこの外来だより第9号の発行時点で、今回のワクチンでリウマチ膠原病が悪くなるという医学的報告はなされておりません。米国のリウマチ学会は利点が上回るとしています。

②効果は得られるのか。

免疫の働きを抑えるお薬で治療を受けていると、ワクチンの効果が多少なかなれ弱くなるかもしれません。

それでも、米国のリウマチ学会は、一般の方と同様に接種すべきであるとしています。特にリツキシマブ・リツキサン[®]の点滴静注による治療を受けておられる方は、外来担当医と接種について相談しておくのが望ましいです。

③受けてよいのか。

ワクチンは重症化を防ぐ可能性があり、この新型コロナウイルスに対して、少しでも抵抗力を増しておくのはよいことです。欧州のリウマチ学会も「よい選択である」、米国のリウマチ学会は「強く推奨」しています。申込みが必要な方は、予約しておくのがよいでしょう。

以上、新型コロナウイルスに対するワクチンについて記しました。参考にしていただけたら幸いです。